

幼保連携型認定こども園 YMCA 保育園 6月えんだより

6月聖句：「見よ、それは極めて良かった。」

(創世記1章31節)

梅雨の季節となります。春から夏への季節の移り変わりを、目で見、触って、聞いて、匂って、五感を使って今の自然の姿を感じられる時です。又、子ども達が落ち着いて過ごす時から、自分以外の外的世界に向けて興味や関心を持つ時期です。今月も元気いっぱい遊びましょう。

聖書には、神様が全てのものを造られたことが示されています。空と大地、水や生き物、そして人間も一人一人を形づくられて、「見よ、それは極めて良かった」と言われています。隣人を見ても、世界を見ても、誰一人同じ人はいません。つまり、神様は、その違いをもすべて含めて良いと言っています。しかしながら、神様が造られた良いものを、良くないものへと変えてしまうのが人間の一つの姿です。人間は、違いや弱さばかりを気にしてしまいます。神様が良いと思って造られた部分を、弱さにしてしまうのが人間です。一人一人の違いがあって、足りないところを補い合って生きていく存在なのに、違いや弱さを認めにくく、それにより優劣をつけて生きている部分があることは否めません。神様は、この世界をどのように感じているのでしょうか。

私たちが生きている社会は「できる」ことが求められます。それを「行いの価値」と言いますが、何か「できる」こと、その能力がその人の価値を決定する社会の側面はないでしょうか。「できない」人は軽んじられてしまうのも事実です。つまり、勝ち組、負け組のように、二分されてしまう社会の一面を感じることも多々あります。しかし、私達にとって本当に大切なのは「存在の価値」です。それは何か「できる」から価値があるというのではなく、「あなたがいること」に価値があるということです。何か「できる」から大切にするのはなく、目の前にいる「あなたという存在」を大切にすることが、神様が創造された祝福の世界なのです。

どのような私でも神様は祝福し、良い、素晴らしいと言ってくださっています。身近なところから私達のできることを始めていきたいと思えます。差別や偏見、争いがなくなり、一人ひとりの存在を喜び合う世界を形作っていくのは、「みんな極めて良い」という神様の思いを受け止め、今日出会う人と心から接していくことにあるのでしょうか。キリスト教保育の原点はここに 있습니다。私も含め人間は弱い存在であります、この原点に立ち返り、歩みを進めていきましょう。

6月	乳児 (0,1,2 歳児)	幼児 (3,4,5 歳児)
月主題	あれっなんだ	みつける
月の願い	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者の祈りや讃美歌を歌う姿に触れる。 ・自分の好きなものと関わる中で、興味を広げていく。 ・自然に触れ、親しみ、心と身体で感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者と祈り、賛美する生活を通して、神様の存在を知る。 ・友だちと一緒に楽しみ満足感を感じる。 ・園内外の自然に触れ、気候の変化を感じ、開放感を味わう。
讃美歌	ことりたちは こども改 10	虹の架け橋 川上盾牧師